

2021年1学期始業式講話（中学生及び高校生共通）

校長 皆川 勝

4月1日より校長として赴任いたしました。最初に自己紹介をします。私は、これまで東京都市大学の教員として40年間を務め、最後の3年間は副学長として都市大の教育全般を担当いたしました。

私の専門は都市工学ですが、英語では Civil and Urban Engineering といわれるように、「市民・社会のためにどのように工学を活用するか」という学問分野であり、理系と文系の融合した分野です。ですので、特に「理系の人材における文系的な知見・センス」、「文系の人材における理系的な知見・センス」の重要性を考え続ける立場でもありました。そのような経験から、生徒の皆さんには、何事にも幅広く前向きに取り組んでほしいと思っています。

始業式にあたっての講話の内容に入りますが、本日の講話では二つのことをお話しします。

始めに「メモの勧め」というお話しをします。授業の時にはノートをとることは基本なので忘れる人はあまりいないと思います。ですが、この講話もその一つですが、その他の場で何らかの話しを聞いているときに、メモを取る人はそう多くはないように思います。お話が流暢であれば、その場で理解できるし、分かったような気持ちになりますので、メモに残さないのかもしれませんが、しかし、それは自分の中に蓄積されて有効に利用されるかといえ、必ずしもそうはならないのです。もちろん断片を思い出すことはありますし、聞いたことは何らかの形では頭の中に残るでしょう。しかし、それと同時に覚えていることは忘れるものです。ですから、メモ魔になることを強く勧めます。授業に限らず、自分の大切な時間が、どなたかのお話を聞くために使われる場合、あるいは、他の仲間や先生方と話し合う、議論をするといった場合に、どうかその時間を自分にとってより有効なものにするために、重要なキーワードなどを記録することを習慣付けてください。

ガリレオガリレイは、「書きとどめよ。議論したことを風の中に吹き飛ばしてはいけない。特に数字という言葉を使って。」と述べたそ

うです。ガリレオが言ったことだと考えれば、実践してみようという気持ちになるでしょうか。これからいろいろな状況で、様々な方のお話を伺う機会があると思いますが、皆さんがメモをとることによって、皆さんにとって意味のある情報になるように心がけてください。特に、数字はうそをつきません。また、正確に人から人へ伝わるものです。数字を大事にしてください。メモを取る時には、最も重要な数値を必ず含めるようにしましょう。

二つ目の話は、「生徒とは何者か」という話です。中高生は生徒、大学生は学生、と日本では呼ばれます。法律で定められています。海外では、生徒も学生も students です。Students の動詞は study、「勉強する」と訳するのが普通ですから「勉強する人」ということになります。しかし、study には「研究する」という意味もあります。さらにもともとの語源は「何かに没頭する、打ち込む」という意味のようです。生徒の皆さんは students ですから、知識を単に与えられる人ではないということです。少し極端に言えば、すべての学びは、自分たちが自主的に行う研究であり、探求であると思います。

また、教育は英語で education ですが、動詞は educe です。人間の中に存在している能力、力を引き出す、という意味です。ですので、先生方の生徒の皆さんに対する役割は「生徒の皆さんの中にある力を引き出すこと」ということができます。生徒の皆さんが自立して行う研究や探求を、全力でバックアップして、皆さんの潜在的な力を引き出してくださる応援団が先生方です。

ということで、始業にあたって、あらためて students や Education といった言葉の本来の意味をかみしめて、生徒の皆さんには主体的に、学習やクラブ活動に精励していただきたいと思います。

以上で、始業式の校長講話といたします。